

〈特別寄稿〉

高知大学帰国留学生ネットワーク (中国上海地域)同窓会設立大会に寄せて

櫻井克年

1. はじめに

みなさん、こんにちは。現在は、国立大学法人になっています高知大学の総務・国際交流担当理事並びに副学長をしております櫻井克年と申します。よろしく申し上げます。みなさん、こんなにたくさん集まっていたいただき、どうもありがとうございます。関係者一同、大変喜んでおります。これから頑張ろうと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

本来は、学長が来られる予定でしたが、ドクターストップがかり海外出張ができなくなってしまいましたので、私が代わってご挨拶をさせていただきます。

学長も今回の同窓会設立総会をとっても楽しみにしておられたので、出席できないことを非常に残念がっておられました。本日お集まりの皆様、くれぐれもよろしくお伝えください、と伝言を承ってまいりました。また、何時の日にか、上海の皆様と一緒においしい酒を酌み交わしたいともおっしゃっておられました。

2. これまでの上海訪問にまつわる思い出

私自身は、これまでに、4回上海にきました。今回が5回目です。そのうち3回は、上海交通大学の何明教授の招待を受けてやってまいりました。何をしたかといいますと、上海市の委託を受けた事業で、何明先生がやっていらした塩類土壌の修復に関する研究をお手伝いするという形で参りました。それから、上海交通大学でも一度だけ環境修復に関する講義をさせていただきました。

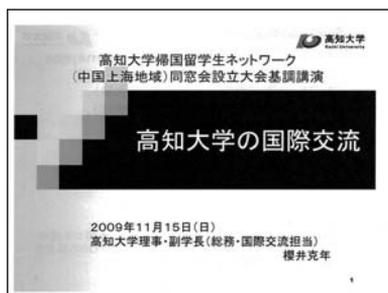
最後に来ましたのは2004年頃です。そのときには、上海交通大学大学院修士課程を修了後、愛媛大学大学院・連合農学研究科の熱帯・亜熱帯特別コースに入学し、高知大学の岩崎先生のもとで博士を取得した陳さんの研究用土壌試料のサンプリングを行うための現地調査で来ました。久しぶりに上海に参りまして、昨日はおいしいお酒を飲み、懐かしい気持ちでいっぱいです。

いつでしたか、上海の新聞で、「塩類土壌修復権威・櫻井克軍教授」という名前で紹介されたことがあります。私の名前は克年なのですが、一年、二年の年という字を書くのです。それが、なぜが軍になっていたのです。なぜ、私の名前が克軍になってしまったのかはわかりませんが、その新聞は今も持っており楽しい思い出の品となっています。

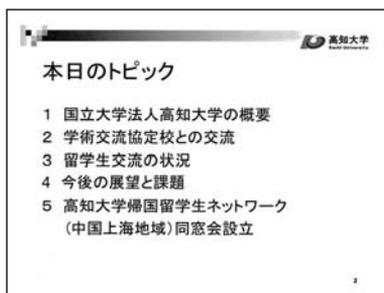
3. 高知大学の国際交流活動

3.1 高知大学の国際交流活動の理念

さて、それでは前置きはこれぐらいにしまして、スライドにそって、現在の高知大学の国際交流活動についてお話したいと思います（資料1参照）。



資料1



資料2

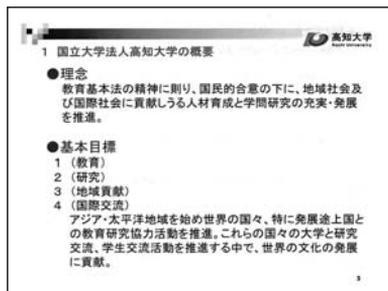
皆さん、高知大学に来られた方ばかりですので、主なことはご存じだと思いますが、簡単に復習をしておきたいと思います。

高知大学の概要、学術交流協定校との交流、留学生交流の状況、今後の展望と課題、高知大学帰国留学生ネットワーク、今回の(中国上海地域)同窓会設立、の順に簡単にお話します(資料2参照)。

高知大学は、大学の理念の下に置かれた基本目標の中の4項目に国際交流をはっきりと挙げております。特に、「アジア・太平洋地域を始め世界の国々、特に発展途上国との教育研究協力活動を推進。これらの国々の大学と研究交流、学生交流活動を推進する中で、世界の文化の発展に貢献」ということを明示しています(資料3参照)。

特に、高知大学がこれまでに培ってきました教育研究上の成果を国際社会へ発信し還元することを目指し、そのためにネットワークを構築し、アジア・太平洋地域及び世界におけるプレゼンスの確立を目指していくということを

考えています(資料4参照)。



資料3

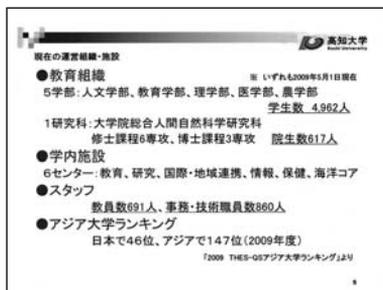


資料4

3.2 高知大学の教育組織と学内施設

現在の教育組織は、学部レベルとして5学部(人文、教育、理、医、農)で、学生数が4,962名です。それから、研究科は以前はたくさんあったのですが、1つに統合いたしました。大学院は大学院総合人間自然科学研究科という名前前で、修士課程は6専攻、博士課程は3専攻です。昔の研究科がこの専攻の中に入っています。全院生数が現在、617名です。そのほかに6つのセンター、総合教育センター、総合研究センター、国際・地域連携センター、総合情報センター、保険センター、海洋コア総合研究センターがあります。

教員数が691名、事務・技術職員が860名です。それから、日本には大学が700校くらいあるのですが、高知大学は、日本では700校ある大学の中で46位、アジア大学ランキングでは147位という結果が、あるランキング会社のランキングで発表されています(資料5参照)。



資料5

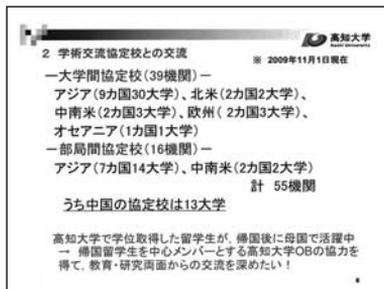
3.3 高知大学の国際交流協定校

高知大学は、現在、39の大学と大学間協定を結んでいます。それから、部局間協定として学部間レベルで16校と提携しており、合計55の機関と国際交

流協定を締結しています。そのうち、中国の協定校は13校です。このように中国にはたくさんの協定校がありますし、帰国された方もたくさんいらっしゃいますので、そういう人と協力をして今後の交流を深めたいと考えています（資料6参照）。

上海の近郊の大学で、一番早く協定を締結したのは揚州大学、その後は、上海交通大学、安徽大学、河南大学、江蘇工業学院です（資料7参照）。

上海近郊以外では、佳木斯大学、陝西科技大学、中国海洋大学、瀋陽薬科大学、天津師範大学等と大学間レベルの協定があります（資料8参照）。



2 学術交流協定校との交流 ※ 2009年11月1日現在

— 大学間協定校 (39機関) —
 アジア (9カ国30大学)、北米 (2カ国2大学)、
 中南米 (2カ国3大学)、欧州 (2カ国3大学)、
 オセアニア (1カ国1大学)
 — 一部局間協定校 (16機関) —
 アジア (7カ国14大学)、中南米 (2カ国2大学)
 計 55機関

うち中国の協定校は13大学

高知大学で学位取得した留学生が、帰国後に母国で活躍中
 — 帰国留学生を中心メンバーとする高知大学OBの協力を
 得て、教育・研究両面からの交流を深めたい！

資料6



①上海近郊の大学間協定校 (5校)

大学名	所在地	締結年月日	中心部局
 揚州大学	江蘇省揚州市	1997年3月	農学部
 上海交通大学	上海市	2002年3月	農学部・医学部
 安徽大学	安徽省合肥市	2002年5月	教育学部・人文学部
 河南大学	河南省開封市	2006年4月	教育学部・人文学部
 江蘇工業学院	江蘇省常州市	2006年12月	理学部

資料7



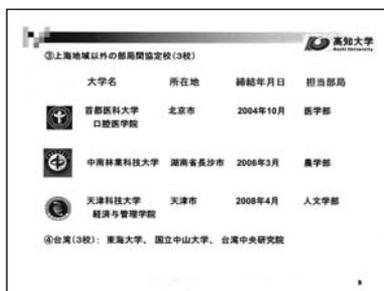
②上海近郊以外の大学間協定校 (5校)

大学名	所在地	締結年月日	中心部局
 佳木斯大学	黒龍江省佳木斯市	1985年10月	医学部
 陝西科技大学	陝西省西安市	1994年7月	理学部
 中国海洋大学	山東省青島市	1997年5月	農学部
 瀋陽薬科大学	遼寧省瀋陽市	2005年5月	農学部・医学部
 天津師範大学	天津市	2006年12月	教育学部

資料8

それから、首都医科大学、中南林業科技大学、天津科技大学等の部局と協定を結んでおります。また、現在、台湾とも3校協定を結んでいます（資料9参照）。

中国以外となりますと、アジア地域が28校、北米・南米・オセアニアが8校、欧州が3校です。やはり、アジアが一番多いのですが、韓国、ベトナム、フィリピン、インドネシア、マレーシ



③上海地域以外の部局間協定校 (3校)

大学名	所在地	締結年月日	担当部局
 首都医科大学 口腔医学院	北京市	2004年10月	医学部
 中南林業科技大学	湖南省長沙市	2006年3月	農学部
 天津科技大学 経済与管理学院	天津市	2008年4月	人文学部

④台湾 (3校): 東海大学、国立中山大学、台湾中央研究院

資料9

ア、タイ、インド等の大学と協定を結んでいます。

中国の13とアジアの28を合わせますと、全協定校55校のうちアジア地域が44校ということで、80%を占めています。高知大学の交流は、アジア中心と考えていることがお分かりいただけると思います（資料10参照）。

高知大学
Kochi University

中国以外のその他協定校(39校)

◆アジア(28)

韓国
釜山大学、慶熙大学、韓国大学、ソウル社会福祉大学院大学、忠清大学、忠北大学、釜山外國語大学、韓國地質資源研究院、東國大学、慶北北大

ベトナム
ハノイ工科大学、ハノイ科学大学、ハノイ教育大学、ロムンブ習等中等高等専科

フィリピン
フィリピン大学、ビコール大学、フィリピン農業

インドネシア
プラジャヤ大学、サンタラワン大学、ボゴール農科大学、スラウィジャヤ大学、ハルボロ大学、インドネシア科学技術

マレーシア
マレーシア科学大学

タイ
コンケン大学、サイヤム大学、タイ農林畜産

インド
コウチ科学技術大学

◆北米・南米・オセアニア(8)

米国
カリフォルニア州立大学フルトン校、カナダ、ブリティッシュコロンビア大学、年ニューバラン大学、少年シゴ、オムルパシオ工科大学、国立のチカ工科大学

ボリビア
コロンビア大学、チリ、メルカド大学

オーストラリア
クイーンズランド大学

◆欧州(3)

チェコ
南ボヘミア大学、チコ科学アカデミー農業研究

スウェーデン
スウェーデン大学

10

資料10

3.4 高知大学の協定校との特色のある国際交流活動

過去6年間の協定校との国際交流活動を、2003年度の実績とくらべてみます。いろいろな派遣・受入の交流があるのですが、人数のところをご覧ください。2003年には143名だったのですが、2008年には474名になっておりまして人的交流数は3.3倍に増加しています。そのぐらいいろいろな相互の交流活動が現在、どんどん増えているような状況にあります。下の段はそれ以外の研究やセミナー等が書いてありますので、詳細は資料をご覧ください。今後も、さらにもっともっと海外のいろいろな大学といろいろな活動を展開していき、活発に交流したいと考えています（資料11参照）。

高知大学
Kochi University

協定校との国際交流活動(過去6年間)

項目	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
研究員・受入	6	47	51	33	74	75
研究員・派遣	38	95	78	104	113	125
学生・受入	75	87	61	53	48	119
学生・派遣	15	60	112	121	121	141
業務員・受入	0	0	2	1	6	3
業務員・派遣	9	1	9	0	6	11
合計(人・回)	143	290	313	312	368	474
※人的交流の2003年度と比べると人的交流数が3.3倍と大幅的に増加した。						
共同研究	調査せず	25	35	54	60	68
国際シンポジウム・セミナー	調査せず	18	16	17	48	37
講義・実習・フィールド活動	調査せず	14	23	30	54	63
共同出版	調査せず	8	7	13	18	21
小計(回・冊数)	—	65	81	114	180	189
合計(回・冊数)	—	143	355	394	426	548

11

資料11

それでは、現在、部局が行っている特徴ある交流活動を紹介します。最初に、人文学部で行っているものですが、中国、韓国、インドネシア、サウジアラビア等に高知大学で勉強した人が日本語の先生として、それらの国の大学へ派遣されています。また、タイ・スタディーツアーとありますが、学生

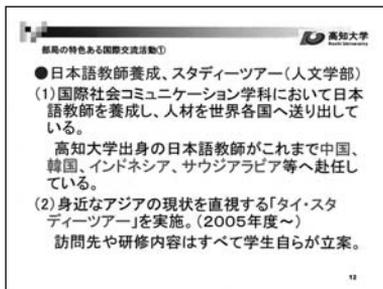
が自分たちでどういう計画を立てるかを全部任されて、タイで巡りたいフィールドを自分たちで決めて実行するというツアーも実施されています(資料12参照)。

教育学部は遠藤先生を中心に、高知県の姉妹都市である安徽省と共同で、安徽大学日本語教育センターが設置されましたし、ついこの間、第1回安徽日本文化祭が安徽で開催されました。

これは、高知県も安徽省と協定があることから、高知県、高知大学、安徽省、安徽大学という形で、非常に大きな広がりを持った交流の一つです(資料13参照)。

医学部では、インドネシアのパプア州へベッドを送ったり、看護師さんたちのお手伝いをしたりというプロジェクトがあります。その地域の医療環境改善ということで、医療補助者の養成を実施しています。また、AMDA「アジア医師連絡協議会」というのがありまして、これはNGOの一つですが、そこと提携をしております、ネパールでの周産期医療の技術協力が始められています。

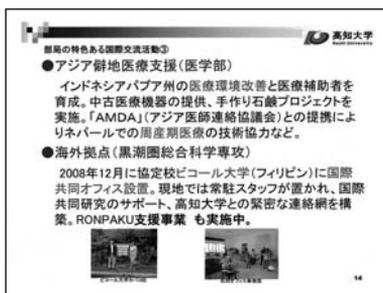
黒潮圏総合科学専攻では、フィリピンのピコール大学に国際共同オフィスを設置して活動をしています(資料14参照)。



資料12



資料13



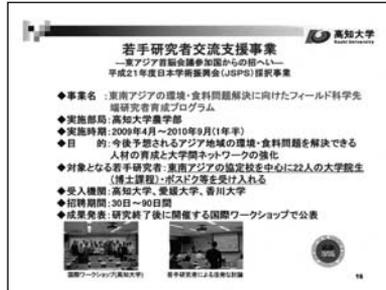
資料14

農学部では、海外フィールドサイエンス実習プログラムを実施しております。タイやベトナム、それから、四国全体をフィールドとして学生を派遣し

たり、学生を招聘したりという活動が、2005年から継続的に実施されており、それが現在は農学部の中にある国際支援学コースの正規のカリキュラムになっております（資料15参照）。



資料15



資料16

3.5 高知大学の国際交流事業

現在、実施中のプログラムで日本学術振興会（JSPS）の支援を受けた、若手研究者交流支援事業があります。これは、「東南アジアの環境・食料問題解決に向けたフィールド科学先端研究者育成プログラム」というタイトルで、東南アジアの協定校を中心に22名の大学院生・ポスドク等を受け入れることを実施しています（資料16参照）。

これは、そのときの国際ワークショップのプログラムです。ここに参加した大学のロゴを全部貼ってありますが、たくさんの大学から研究者が来てシンポジウムを行いました（資料17参照）。

さらに、もう一つプログラムがあります。日本学生支援機構（JASSO）の支援を受け、21世紀東アジア青少年大交流計画（JENESYS アセアン）学生交流支援事業「フィールドサイエンスに特化した環境リーダー養成プログラム」と



資料17

いうものです。これも現在、実施中ですが、東南アジアの協定校から13名を半年間受入れて、高知大学で教育しているところです(資料18参照)。

いずれも、農学部を中心とした活動ですが、本学の中で最も活発なものの一例です。それから、先ほどの教育学部の安徽省とのものも、もう一つの活発な例です。さらに、医学部が最近、パプア州にだいいづ力を入れ始めました。そういう形で様々な事業が進行中なのですが、大学としてはアジア・フィールドサイエンス・ネットワークの設立とその推進を一つの柱と考えています。それで、このネットワークの部分には中国も入りますので、中国からも今後は、学生さんや若いスタッフを呼んで、一緒にできればいいなと考えています(資料19参照)。

資料18

資料19

4. 留学生交流の状況

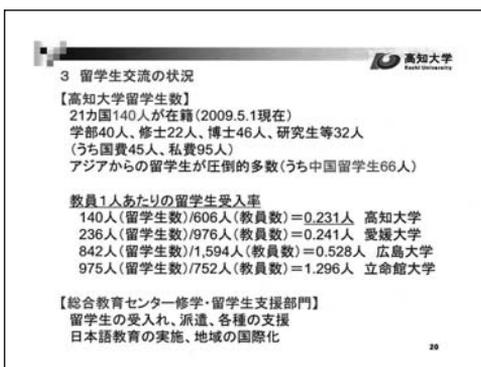
4.1 現在の留学生の状況

現在、高知大学には、21カ国140名の留学生が在籍しています。そのうち、中国からの留学生が66名ということで、約半分が中国からの留学生ということになります。

下の数字は教員1人あたりがどれぐらい留学生を受け持っているかというものです。現在、140名の留学生数というのは少ない環境なのですが、高知

大学はそれほど大きな大学ではありませんので、教員の数も少ないのです。教員1人あたりでは、0.23名程度留学生を受け入れています。同じ四国の中の愛媛大学では、高知の西の上の方の大学ですが、そこは留学生の数は多いのですが、教員1人あたりの数を計算したら、あまり変わりません。もちろん、広島大学などでは留学生数はずっと多いです。また、特にアジア太平洋立命館大学は、半分は留学生で半分は日本人であり、他と比べものにならないくらい留学生数は多いです。いずれにせよ、教員1人あたり0.23名程度というのは、割と標準的な数値だと思っています。

そして、先ほど挨拶された渡邊先生の所属しておられる総合教育センター修学・留学生支援部門では、留学生の受け入れ、派遣、各種の支援、日本語教育の実施、地域の国際化等を担っていただいています(資料20参照)。



3 留学生交流の状況

【高知大学留学生数】
21カ国140人が在籍(2009.5.1現在)
学部40人、修士22人、博士46人、研究生等32人
(うち国費45人、私費95人)
アジアからの留学生が圧倒的多数(うち中国留学生66人)

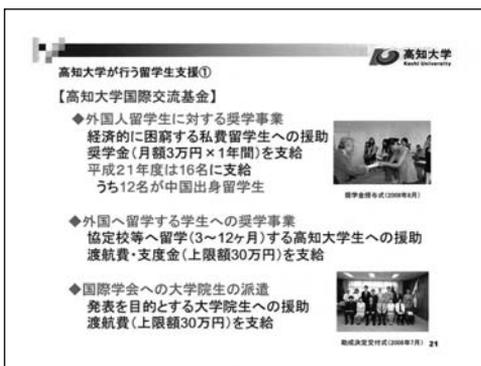
教員1人あたりの留学生受入率
140人(留学生数)/606人(教員数)=0.231人 高知大学
236人(留学生数)/976人(教員数)=0.241人 愛媛大学
842人(留学生数)/1,594人(教員数)=0.528人 広島大学
975人(留学生数)/752人(教員数)=1.296人 立命館大学

【総合教育センター修学・留学生支援部門】
留学生の受け入れ、派遣、各種の支援
日本語教育の実施、地域の国際化

資料20

4.2 高知大学の留学生に対する支援

現在の高知大学における留学生への支援ですが、高知大学はお金持ちではありませんので、あまりたくさんはできておりません。しかし、外国人留学生への奨学事業ということで、国際交流基金を利用した事業を行っています。特に、私費、すなわち自分のお金で来られている外国人留学生に月額3万円、1年間の奨学金を支給しています。平成



高知大学が行う留学生支援①

【高知大学国際交流基金】

- ◆外国人留学生に対する奨学事業
経済的に困窮する私費留学生への奨助奨学金(月額3万円×1年間)を支給
平成21年度は16名に支給
うち12名が中国出身留学生
- ◆外国へ留学する学生への奨学事業
協定校等へ留学(3~12ヶ月)する高知大学生への奨助渡航費・支度金(上限額30万円)を支給
- ◆国際学会への大学院生への派遣
発表を目的とする大学院生への奨助渡航費(上限額30万円)を支給

資料21

21年度には16名に支給したのですが、そのうち12名は中国人の留学生です(資料21参照)。

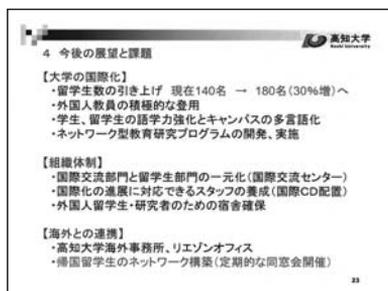
それと、留学生が日本に来て、その後日本で就職したい、仕事をしたいという留学生のためのアジア人財資金構想の高度留学生育成事業という支援もあります。これは、経済産業省という日本の省のプログラムの一環なのですが、そのような人たちにビジネス日本語、ビジネス文化、インターンシップ等を実施して日本の会社でも働けるような人を作ろうという留学生のための人材育成プログラムを実施しています(資料22参照)。



資料22

5. 高知大学の今後の国際交流活動の展望と課題

今後の展望と課題ということですが、大学の国際化のための現在の目標は、140名程度の留学生を180名程にはしたいということで、あと40名程増やしたいと考えています。そして、そのためには組織体制の整備や海外との連携を強化する必要があります。今、ここでやっております(中国上海地域)同窓会等を設置していくことなどは、その重要な活動の一つです。また、東南ア



資料23



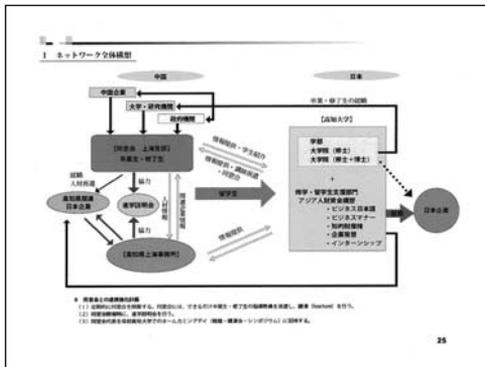
資料24

ジアのさまざまなところにも同窓会を設置していこうと計画中です（資料23参照）。

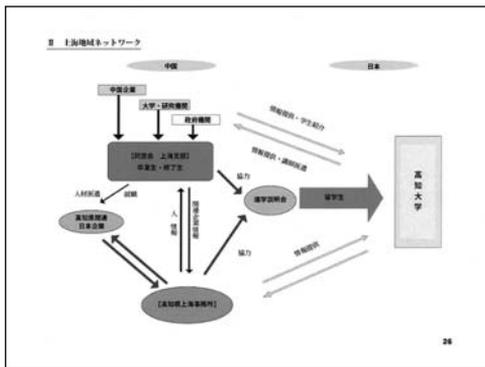
日本では現在、国立大学は目標と計画を立てなさい、それを6年間で実施しなさいということになっています。現在は最初の計画の6年目です。2010年から新しい6年間の中期目標・中期計画が始まるのですが、その中でも国際交流、国際連携に関することが謳われています。ネットワーク型教育研究の推進、協定校との連携強化に基づいて、何よりも教育研究の活性化、「知」の国際貢献をキーワードにしようということです（資料24参照）。

今回の帰国留学生ネットワークの全体構想です。本日は同窓会、高知県の企業、今回は県の方にも来ていただいています。高知県上海事務所、それから、高知県関連の色々な日本企業等と連携して現場でつないで、例えば、進学説明会等を行い、高知大学にもっと留学生を送ってもらおうというのが、重要な活動の一つです。そして、中国からの留学生を積極的に受け入れ、高知大学で教育を受けた後に、先ほど述べましたように日本企業に就職をする方もありますし、また国に帰って企業や大学・研究機関、政府機関等で働かれることもあると思いますが、優秀な人材を送り出したいと考えています（資料25参照）。

これが、上海地域ネットワークのみを拡大したものです（資料26参照）。

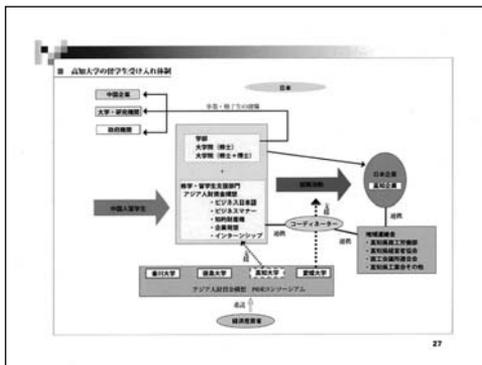


資料25



資料26

これは、先ほどの右の部分だけを拡大したのですが、中国人留学生を受け入れた後の流れです。経済産業省の支援を受けた、アジア人財資金構想・四国コンソーシアムの活動を通して、企業等との連携を一層強化することを目指したものです(資料27参照)。



資料27

6. 心豊かな交流とは 今こそ始まりのとき

さて、最後になりますが、原点に戻って少し考えてみたいと思います。「交流」とは何でしょうか。

交流の基本は、相手の立場を尊重することから始まり、次に、自分たちのさまざまな事情をそこに加えます。そして、その上で、相互によく理解し、互いに知恵をしばった結果、何か新しいものを作ろうということであると思います。

同窓会は、この交わりを強固にし、そしてこれからどちらへ進んでいくのかという方向性を決める、つまり、川の流れを付けていく役割を果たすのだと思います。

この同窓会の設立によって、まず、上海地区の大学と高知大学の交流が深まると思います。しかし、それだけではなく、上海地区から、中国の他の地域の同窓生(OB)が帰っている大学にも発信していただき、この上海が交流の輪の中心になっていただきたいと考えています。

そういった意味では、中国、この上海地域の同窓会が、中国の拠点として機能してほしいと思っています。

さらに、高知大学と交流のあるアジアの大学・研究機関にも拠点を複数置く予定です。また、四国内の大学との協力体制を構築したいと思っています。そして、四国内の国立大学法人とのネットワーク、アジアのネットワークを両方合わせて本当の意味でのアジア全体のネットワークに発展させたいと考えています。

このような私たちの取り組みが、将来の日本 中国 アジア全体のよりよき相互理解につながり、政治レベルではない形で絆を深めていければよいと思います。

私たちは嬉しいとき、楽器を鳴らして、歌を歌います。高知大学と上海地域の同窓会との間でも、共に歌おうではありませんか。

交流の歌を歌い、そして心情を共有し、楽しみましょう。交流は義務ではありません。喜んですることだと思っています。

喜んで交流することによって、私たちの心も楽しく豊かになります。そうすれば、交流はさらに発展するはずで、私たちの交流が、大きな輪になり、その輪が世界に広がっていくことを夢見て進みたいと思います。

今こそ始まりのときだと思います！

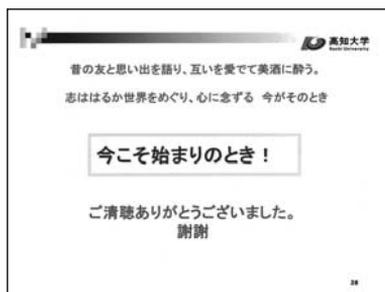
力を合わせて大きな夢を描きましょう。そして、喜びの歌を歌いましょう。

昔の友と思い出を語り、互いを愛でて美酒に酔う。
志ははるか世界をめぐり、心に念ずる 今がそのとき

(資料28参照)

本当はこれを中国の人に頼んで五言律詩にしたかったのですが、頼む間がなくこのような中途半端なものになってしまいました。誰かまた考えてください。今こそ始まりのときだと思います。

どうもご静聴ありがとうございました。



資料28

さくらい かつとし
(高知大学総務・国際交流担当理事・副学長)

